

文化施設支援を行うsaveMLAKプロジェクトとハーバード大学 「2011 東日本大震災デジタルアーカイブ」プロジェクトが パートナーシップを締結

博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報を集約する saveMLAK プロジェクト⁽¹⁾は、このたび、ハーバード大学ライシャワー日本研究所による「2011 東日本大震災デジタルアーカイブ (The Digital Archive of Japan's 2011 Disasters)」プロジェクト⁽²⁾と正式なパートナーシップを締結いたしました。このパートナーシップにより、博物館・美術館、図書館、文書館、公民館 (MLAK) 関連ウェブサイトを定期的にアーカイブし、震災後消えゆく、もしくは変わりゆくページを記録していくことが可能になります。

saveMLAK は、東日本大震災で被害を受けた被災地域の文化・歴史を支え、地域の交流・学習・情報拠点としての役割を担ってきた博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報を集め、その情報を共有することを目的としたサイトです。一方、震災に関するデジタル情報を可能な限り多く収集・保存し、皆様にご利用頂ける形にすることで、この一連の出来事やその影響を学問的に研究・分析できる場を整えることを目的とした「2011 東日本大震災デジタルアーカイブ」プロジェクトと協力関係を築くことで、saveMLAK で参照している外部サイトのページが、時間の経過とともに、ページそのものがなくなったり、大幅に内容が変わったりする問題を解決することが可能となります。将来への知的資産として、日々移り変わり、時に変化の中で記録されず消えていってしまうウェブサイトの情報を蓄積することで、今後の研究・分析への一助となることを願っています。

本プロジェクトのパートナーシップ締結およびプロジェクトの存在について広く周知したく、記事掲載等をお願い申し上げます。

※「2011 東日本大震災デジタルアーカイブ」プロジェクト内パートナー掲載ページ

<http://www.jdarchive.org/partners/>



【お問い合わせ先】

saveMLAK パブリック・リレーションズ担当：岡本、山村、北岡

E-mail：pr@savemlak.jp

電話：070-5467-7032 (岡本)

住所：神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 2F さくら Works<関内>

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 内 saveMLAK プロジェクト



- (1) 博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報サイト <http://savemlak.jp/>
 東日本大震災を受け、博物館・美術館 (Museum)、図書館 (Library)、文書館 (Archives)、公民館 (Kominkan) (以下、MLAK) の関係者及び支援者では、上記各施設の被災情報・救援情報を集約した「saveMLAK - 博物館・美術館、図書館、文書館、公民館 (MLAK) の被災・救援情報サイト」を4月11日に開設しました。saveMLAK プロジェクトでは、このサイトを起点に、MLAK の復興・活動再開に向けた支援活動を進めています。

The screenshot shows the saveMLAK website with the following content:

- saveMLAK** logo and navigation menu on the left.
- ページ 議論** (Page Discussion) header.
- News items:
 - NEW 河北新報等をご覧になられた方へ: 専門技能ボランティア登録受付 を行っています。
 - saveMLAKへの寄付 を受け付けています。
 - saveMLAK Tシャツ 注文受付中。関連イベントでも販売中。売上はsaveMLAKの活動資金になります。ご協力をお願いします。
 - 東北のMLAKに行こう! いろんな支援も大事ですが、復活したところ、再開したところを見に行きましょう。
- saveMLAK** 博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報
- Language options: 日本語 | English | 中文
- Search bar with "検索" button.
- Facility information section:
 - saveMLAKは博物館 (M)、図書館 (L)、文書館 (A)、公民館 (K) (M+L+A+K=MLAK) の被災・救援情報サイトです。被災地域の各施設の被災情報を集め、必要とされている情報を発信しています。(もっと詳しく)
 - 施設情報 (全13265件)
 - 登録施設には被害状況が把握できていないものが多数含まれます。被害のありなしや再開に関する情報提供を広く募集しています。
- Summary tables:
 - 全般**
 - 被害報告のあった施設 (470件)
 - 支援募集中の施設 (7件)
 - 館種別** (被害報告のあった施設数 / すべての施設数)
 - 博物館・美術館 (162件 / 5387件)
 - 図書館 (246件 / 1539件)
 - 文書館 (25件 / 160件)
 - 公民館 (54件 / 6265件)
 - 類縁施設 (1件 / 51件)
 - 地域別** (被害報告のあった施設数 / すべての施設数)

北海道地方	関東地方	中部地方
北海道 (2件 / 998件)	茨城県 (79件 / 779件)	新潟県 (0件 / 711件)
東北地方	栃木県 (24件 / 442件)	山梨県 (2件 / 614件)
青森県 (7件 / 555件)	群馬県 (2件 / 433件)	長野県 (1件 / 803件)
岩手県 (58件 / 817件)	埼玉県 (11件 / 736件)	静岡県 (0件 / 467件)
宮城県 (107件 / 721件)	千葉県 (13件 / 578件)	
秋田県 (1件 / 590件)	東京都 (9件 / 952件)	
山形県 (3件 / 504件)	神奈川県 (3件 / 483件)	
福島県 (128件 / 853件)		
- Map section:
 - 被害報告のあった施設一覧
 - Map of Japan showing facility locations with colored markers.
 - Map controls: 地図, 航空写真, 200 km, 200 mi.
- Twitter sidebar:
 - ツイート上の #saveMLAK
 - Twitter posts from users like s88ageha and tmasao.

- ・ 施設情報 (全 13265 件)
 - * 被害報告のあった施設 (470 件)
 - * 支援募集中の施設 (7 件)
- ・ 館種別 (被害報告のあった施設数 / すべての施設数)
 - * 博物館・美術館 (162 件 / 5387 件)
 - * 図書館 (246 件 / 1539 件)
 - * 文書館 (25 件 / 160 件)
 - * 公民館 (54 件 / 6265 件)
 - * 類縁施設 (1 件 / 51 件)

(2011年8月11日現在)



(2) 「2011 東日本大震災デジタルアーカイブ」プロジェクト [http://www. jdarchive. org/](http://www.jdarchive.org/)

「2011 年東日本大震災デジタルアーカイブ」は、ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所が中心となり、パートナーたちとの連携のもと進められているプロジェクトです。本プロジェクトが目指すのは、震災に関するデジタル情報を可能な限り多く収集・保存し、一般に利用できるようにすることで、この大震災の一連の出来事やその影響を学問的に研究・分析できる場を整えることにあります。

当企画について | 投稿方法 | わたしの「東日本大震災」 | News | お問い合わせ

English

「当企画について」

「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」は、ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所が中心となり、パートナーたちとの連携のもと進められているプロジェクトです。私たちが目指すのは、震災に関するデジタル情報を可能な限り多く収集・保存し、皆様にご利用頂ける形にすることで、この一連の出来事やその影響を学問的に研究・分析できる場を整えることにあります。保存された記録が震災についての直接的な資料として短期的にお役に立つだけでなく、2011年3月11日に起きたこと、そしてそれが日本と世界にもたらしたものを、研究者が将来理解できるため長期的に意味あるものにできますよう願っています。

このアーカイブが積極的に探しているのは、日本語・英語・中国語・韓国語で書かれた3月11日の震災に関するありとあらゆる資料であり、その中には震災後の復興についての解説や記録も含まれます。地域の、日本の、そして世界の人々が何を感じ、どう振る舞ったのかが記されている資料もその対象となります。

インターフェースが完成した暁には下記のような情報の検索が可能となります：

- **ウェブサイト** - 複数の言語で書かれた、団体や個人の膨大な量のアーカイブ。次のものはその一例です。
 - NGO、企業、業界団体、学校、政府機関
 - 被災者、救援活動に携わる方、科学者、医療関係者、議員
- **個人的な体験** - 震災やその後に関するもの
- **写真や動画** - 写真を保存している私たちのパートナーにより集められた写真や動画、あるいはFlickr、Picasa、YouTubeなど一般に公開されているデータベースから得られるもの
- **音声** - ラジオ放送などを録音したもの
- **地図や地理情報** - 地理学分析センター (Center for Geographic Analysis) や他のパートナーにより作成された地理情報レイヤーなど
- **ソーシャルメディア** - ツイッター、公開されているフェイスブックやその他のソーシャルメディア上で交わされた情報
- **その他のテキスト資料** - メールやメーリングリスト上でのやりとり、レポートや書類のPDFファイル
- **記事データベース** - 私たちのパートナーが所有するメディア・書類データベースへのアクセス

ウェブサイトや個人々の体験など、これらのうちのいくつかは私たちによって直接収集されています。しかし大部分はパートナーの協力を得て保存され、閲覧が可能となっています。アーカイブについてのより詳しいメディア情報はこちらにございます。

コンテンツと所蔵情報

現在構築中の統合的インターフェースにより、当デジタルアーカイブを訪れた方は上記のような情報を閲覧・検索し、また共有することができます。例えば、個人的な体験を地図情報とあわせて読む一方で、その付近で、あるいは同じ時期に起きたこと、写真や音声による記録も簡単に見つけることができます。当デジタルアーカイブがこのような機能を備えるまで今しばらくお待ち下さい。完成した際には、私たちが独自に収集した資料だけでなく、パートナーである諸団体が所有している豊富なアーカイブも、まるで流れるように検索して頂くことがこの企画の目的です。主なパートナーに関する詳細はこちらをお読み下さい。

パートナーについて

ご協力をお願い

最終的には、このプロジェクトは皆様の投稿により支えられており、その対象とするところは、私たちのスタッフが収集し管理する上記のような情報の範囲を大きく超えています。ご自身の経験されたことや皆様が重要と思われる情報を少しでも詳しく教えて頂けるよう、重ねて切にお願い申し上げます。

あなたの物語を共有しましょう - 「わたしの東日本大震災」ページを直接ご利用になることで皆様の体験を共有しませんか。それが起きた時どこにいらしたのか、またその出来事はあなたをどこに動かしたのか、そしてそれはいつからいつまでのことだったのかをお教え下さい。それにより将来このアーカイブを訪れる方が、アーカイブ内の他の様々な情報や地図の中から皆さまの物語を見つけることができるようになります。

ウェブサイトの投稿 - 未来のために保存すべきだと皆様が考えるような、震災に関するウェブサイトをご存知ありませんか。心に残るブログの記事、震災後に協力し合いながら活動する組織やグループのページ、あるいは多くの意義ある議論を巻き起こし興味深い論点を導きだしたウェブサイトなどをお教え下さい。この震災について調べる未来の研究者や、忘れたくないと願うすべての人が、いま私たちがオンライン上で得られる情報を見ることのできる機会をお与え下さい。

Eメール submit@jdarchive.org - 他の形でオンライン資料を送って頂くことも可能です。例えば、被災地で人々の間に流布された風聞など、やりとりされたEメールを送って下さっても結構です。また書類を直接Eメールで送って頂くこともできます。その際、誰がいつどこで作成した記録なのかなど、その出来事の背景となる情報も可能な限り加えて頂ければ幸いです。